

平成 24 年度 事業報告書

(平成 24 年 4 月 1 日から平成 25 年 3 月 31 日まで)

【実施方針】

- 1 生涯学習関連諸機関と連携し、ネットワークを構築することをおして市民ニーズを踏まえた事業展開を図る。
- 2 市民参画を進め、市民による市民のための学習活動を支援する。
- 3 財団が有する専門性・柔軟性を生かし効率的・効果的な事業運営を行う。

【事業報告】

生涯学習センターでは、さっぽろ市民カレッジの企画を前年度より講座数を増やして実施し、市民のニーズに応えた。また、ご近所先生企画講座は平成 20 年度の開始から 5 年目にして初めて全 10 区での開催が実現し、地域における学びの支援、充実を図ることができた。さらには、大学と連携し、学生による講座の企画・運営を行うなど、さまざまな事業においてコーディネートを行った。

青少年科学館では、平成 25 年 1 月に宇宙飛行士の山崎直子氏を名誉館長に迎え、就任記念のパネル展や特別講演会を開催するなど、子どもはもちろんのこと、多くの市民に宇宙への興味と関心を持つ機会を提供した。5 月には金環日食（札幌では部分日食）の観望会を札幌市天文台で行い、天候も良かったことから、報道陣も含め約 600 人もの参加者でにぎわった。また、月食や金星太陽面通過などの天文現象の観望会も行うなど、市民の天文への興味と関心を高めることに努めた。

1 学習機会提供事業

(寄附行為第4条第1号に掲げる事業)

(目的) 施設機能を活用し、市内の関係機関およびサークル・団体との連携を図りながら、市民の多様化したニーズに対応した学習機会を提供する。

(1) さっぽろ市民カレッジ事業

ア さっぽろ市民カレッジ講座

年3期(平成24年4~8月、9~12月、平成25年1~3月)に分け、市民活動系、産業・ビジネス系、文化・教養系の3つの系で前年度より30講座多い299講座を実施した。

【センター企画講座】

学んだ成果を生かして社会参加につなげる「体験!カフェオーナーへの道」「楽しく歌ってボランティア」「デジカメで札幌を撮る」「やさしさを写真で表現」を札幌市市民まちづくり局と連携して実施した。

エゾシカを食や音楽文化の面からとらえた「おいしいエゾシカ学」など、さまざまな視点からまちづくりを考える講座を実施した。

【ちえりあ学習ボランティア企画講座】

今日的なテーマ「エネルギー事情の未来と課題」を取り上げたほか、「石狩川とともに」「さっぽろ近代都市への歩み」「北海道文学の流れ」など地域を知る講座の充実を図った。

【ご近所先生企画講座】

市内全10区の15カ所に広がった地域会場で開催した33講座中約半数の講座で終了後にサークル化などの継続学習に発展し、コミュニティーづくりにつながった。

【学社融合講座】

市立札幌大通高校の生徒とPTAや中央幼稚園などが連携し、校舎でミツバチを飼育して採蜜する「オオドリみつばちプロジェクト」など、地域のまちづくり活動につながる講座を実施した。

●学社融合講座とは

市立札幌大通高校を会場に開くさっぽろ市民カレッジで、大人と生徒と一緒に学ぶ講座。受講した生徒は高校の単位が認定される、全国的にも珍しい取り組み。

【実績】 さっぽろ市民カレッジ講座内訳(講演会を除く)

※括弧内は前年度実績

	センター 企画講座	ちえボラ 企画講座	ご近所先生 企画講座	学社融合 講座	講座数計	受講者数計
市民活動系	26 (23)	3 (3)	— (—)	4 (4)	33 (30)	446 (397)
産業・ ビジネス系	27 (23)	— (2)	— (—)	5 (6)	32 (31)	369 (449)
文化・ 教養系	48 (33)	7 (6)	159 (149) ちえりあ: 126 (109) 地域: 33 (40)	20 (20)	234 (208)	3,759 (3,691)
合計	101 (79)	10 (11)	159 (149)	29 (30)	299 (269)	4,574 (4,537)

- ・講座修了者（7割以上の出席）：3,686名（前年度3,517名）
- ・学位取得者：「学士号」11名、「修士号」6名、「博士号」4名
- ・学位取得者累計：「学士号」83名、「修士号」53名、「博士号」38名

イ ちえりあ講演会

受講者拡大と学習活動の普及に向け、道内外で活躍している著名な講師を迎え講演会を実施した。

<p>再現！松下村塾～幕末の志士が学んだ吉田松蔭の教え～ 歴史コメンテーター 金谷 俊一郎 山口県萩市に幕末に開かれた私塾「松下村塾」で吉田松蔭が行った講義を解説した。（11月2日）【実績】346名</p>
<p>乙女のPATCHワーク～少女文化の歴史をたどって～ 漫画家 いがらしゆみこ / 北海道大学大学院文学研究科教授 押野 武志 漫画家と気鋭の研究者の対談形式で、戦後に生まれた少女文化の変遷をひもといた。（3月24日）【実績】77名</p>

(2) 生涯学習関連機関等連携事業

ア インターンシップの受け入れ

就業体験や実習の場として学生や生徒を受け入れた。

- ・大学（北海道大学、札幌市立大学、札幌国際大学、北海学園大学、北星学園大学）
 - ・高校（豊明高等養護学校）
 - ・中学校（宮の森中学校）
- 【実績】7校54名（前年度9校72名）

イ 高等教育機関などとの連携事業

さっぽろ市民カレッジで、大学と連携し互いの特性を生かした講座を提供した。また、学生の企画・運営で行った講座ではセンター職員がアドバイスをする教育支援も行った。

連携先	連携内容	講座名
札幌市立大学	教員による講座の企画・運営	札幌の語り部「豊平館」再発見
北海道教育大学	研究室やサークル単位での、学生による講座の企画・運営	世界に一つだけの絵本を作ろう 他5講座
北海学園大学	社会教育主事課程の授業の一環として、学生による講座の企画・運営	留学生と学ぶ！とっておきの韓国

ウ 各区からの受託事業

区役所と連携し、区のまちづくりを学び生涯学習活動の推進を図る事業を実施した。

(a) 夏休み自由研究に役立つ歴史マップづくり

～手稲史跡巡りバスツアー～

手稲区役所から委託され、小学 4～6 年生を対象に手稲区の歴史や文化を学ぶバスツアーを実施した。また、子どもたちがバスツアーの見学先などをまとめたオリジナルマップを作成し、JR 手稲駅で展示した。(7月31日)

【実績】47名(前年度24名)



(b) 西区ときわ大学

西区役所から委託され、高齢者対象の「西区ときわ大学」を全 14 回のカリキュラムで実施した。ご近所先生を講師として活用するなど、市民による学び合いを推進した。(9～10月)

【実績】20名(前年度44名)



エ フィンランドデイズ (共催事業)

NPO 法人コンカリーニョと共催で「フィンランド」をテーマにコンサート、音楽ワークショップ、展示等を市内各地で約 1 カ月にわたって開催した。(5月15日～6月20日)

協力団体はフィンランドセンター北海道事務所、(財)札幌市青少年女性活動協会、(財)札幌市芸術文化財団ほか。

【実績】860名



オ カルチャーフォーラム (受託事業)

日立 IT ユーザ会北海道支部からの委託により、顧客向けに市民カレッジの講師による「銘菓に秘められた歴史と不思議をひも解く」と題した講座を実施した。(1月30日)

【実績】30名(前年度28名)



2 人材活用育成事業

(寄附行為第4条第2号に掲げる事業)

(目的) 市内の関係機関およびサークル・団体と連携し、市民活動およびまちづくり活動を担うことのできる人材を育成する。

(1) 学習支援者活用推進事業

市民カレッジ修了者が学んだ経験を生かす機会や場を設け、学習成果の活用を図った。

ア 市民講師育成（ご近所先生）

「ご近所先生企画講座」の開講を目指す市民を対象に、講座運営に必要な知識やノウハウの習得を図る研修会を開催した。また、講師間の情報交換とネットワーク化を図るため交流会を開いた。なお、ご近所先生の中には講座終了後にサークル等の活動支援を行っている人も多く、「生涯学習によるまちづくり」を進める人材として地域に根を張っている。

【実績】194名（前年度182名）



イ 市民ファシリテーター

「ファシリテーター養成講座」修了者に同講座の補助講師を務めてもらった。

【実績】登録者数2名（前年度1名）



ウ ちえりあビデオクルー

映像メディア講座受講生で結成されたグループに、センター事業、地域の活動・行事、自然風景などのビデオ撮影・編集を依頼し、センターのホームページで作品を発信した。また、映像メディア講座の講師を務めてもらった。

【実績】登録者数23名（前年度21名）



エ コーラスボランティア

「楽しく歌ってボランティア」講座修了者で結成されたグループに同講座の運営補助を務めてもらった。また、老人福祉施設でのコンサートや、12月のゆりかごコンサートへの出演もあった。

【実績】登録者数「チェリーズ」10名、
「コスモス」10名の計20名（前年度23名）



オ カメラボランティア

「やさしさを写真で表現」講座修了者で結成されたグループにロビーコンサートなどの記録写真を撮影してもらった。

【実績】登録者数「ポレフォト」8名（昨年度11名）
「とるとる」5名の計13名



(2) 生涯学習関連施設職員研修事業

区民センターや地区センターの職員を対象に、講座やイベントのタイトル、キャッチコピーの作り方を学ぶ講座を実施した。なお今年度は、施設職員が参加しやすいよう、同内容の研修を2日にわたって実施した。（2月7日、13日）

【実績】17施設32名（前年度13施設18名）

(3) 生涯学習ボランティア育成事業

さっぽろ市民カレッジ講座の企画・運営に当たる「ちえりあ学習ボランティア」と視聴覚教育に携わるグループ「オンデマンド」に活動の場を提供するとともに、機材操作やちらしづくりの研修会を実施して活動を支援した。

【実績】「ちえりあ学習ボランティア」
登録者数48名（前年度36名）
「オンデマンド」
登録者数9名（前年度9名）



ちえりあ学習ボランティア



オンデマンド

3 学習活動支援事業

(寄附行為第4条第3号に掲げる事業)

(目的) 生涯学習に関する情報の収集・発信や学習相談などにより市民の学習活動を支援する。学習に取り組むきっかけづくりを行うとともに、学習成果を発表する機会および各団体との交流の場を設け、生涯学習の普及啓発を図る。

(1) メディアプラザ運営事業

メディアプラザにおいて、生涯学習に関する図書および音楽・映像・語学教材を市民に提供し、資料収集を行った。また、図書や教材についての説明をはじめ、利用者の質問や要望への回答および案内といったレファレンスサービスを行った。

【実績】メディアプラザ利用者数 43,181 名
(前年度 46,116 名)



ア 図書閲覧・貸し出し

生涯学習に役立つ図書の閲覧と貸し出しを行った。また、市立図書館の蔵書の貸し出し・返却を行った。

【実績】図書蔵書 25,094 冊 (新着数 1,157 冊)
貸出冊数 25,269 冊 (前年度 28,010 冊) ※メディアプラザの蔵書分のみ

イ 音楽・映像・語学教材視聴・インターネット検索

音楽・映像・語学教材を視聴に供した。また、インターネットによる情報検索をとおして市民の学習活動を支援した。

【実績】音楽・映像・語学教材保有数 32,069 点 (うち新着数 150 点)
教材貸出件数
音楽教材 2,087 件 (前年度 1,563 件)
映像教材 374 件 (前年度 452 件)
語学教材 91 件 (前年度 173 件)

ウ 学習相談・サークル活動支援

生涯学習に関する相談に対応するとともに、ちえりあに登録しているサークル情報を取りまとめた「サークルガイド」を発行した。

【実績】学習相談 423 件 (前年度 547 件)

(2) 生涯学習情報収集・発信事業

ア La Chieriatte (ら・ちえりあって) の発行

センターが行う講座やイベントなどの事業をPRする広報誌「La Chieriatte (ら・ちえりあって)」を発行した。発行回数を年4回から6回に増やし、積極的な情報発信を行った。

【実績】6月、7月、9月、11月、1月、3月
(各13,000部、6月のみ6,000部)
(前年度年4回、各回15,000部)



イ ホームページの活用

講座やイベントなどの情報提供のほか、ちえりあビデオクルーが撮影した動画を配信して、センターの事業を紹介した。

【実績】アクセス数 976,446 件 (前年度 924,053 件)
メールマガジン配信回数 48 回 (前年度 48 回)
メールマガジン登録者数 2,582 名 (前年度 2,302 名)

ウ さっぽろ生涯学習情報誌の発行

行政機関、大学、民間カルチャーセンターなどで実施している講座の情報をまとめ、市民に提供する冊子を発行した。

【実績】6月、12月 各回 3,000 部発行 (前年度年2回、各回 3,000 部)

エ 子どもの学びガイドの発行

学校休業日に市内公共施設で開かれる子ども向け事業を紹介するちらしを発行し、市内の全児童に配布した。

【実績】7月、9月、12月、3月 各回 93,000 部発行
(前年度年4回、各回 93,000 部)

オ 各種事業の情報発信

講座やイベントの周知を図るため、区民センターや学校などへのちらし、ポスターの配布をはじめ、地域を絞っての新聞折り込みによる情報提供など、積極的かつ効果的な広報に努めた。

(3) 生涯学習普及啓発事業

ア ちえりあフェスティバル

ちえりあの8月25日開館を記念して8月下旬に開催しており、館内の4施設（生涯学習センター、宮の沢若者活動センター、教育センター、リサイクルプラザ）が共同し、2日間にわたり実施した。

ちえりあ学習ボランティアの協力も得ての各種催しや、「ちえりあ環境広場」、ちえボラ企画の「おもちゃランド」、ご近所先生体験講座の「お試し茶の湯」などを子どもから大人まで多くの市民が楽しんだ。また、フェスティバルのタイトルロゴデザインを初めて一般公募し、選考作品をちらしやポスターに使用するなど、市民参加の拡大を図った。（8月25日、26日）

【実績】13,457名（2日間）

（前年度14,440名（2日間））



イ サークル発表会

ちえりあや区民センターなどで活動している団体間の交流と学習意欲の向上を図ることを目的に開催した。舞台部門（音楽や舞踊など45団体）と展示部門（書道や絵画、陶芸など19団体）で学習成果の発表を行った。参加団体は昨年より8団体増加した。（11月14日～16日）

【実績】参加者数64団体680名

（前年度56団体687名）

来場者数1,366名（3日間）

（前年度1,206名（3日間））



ウ 幼稚園児のお絵かき展

一般社団法人札幌市私立幼稚園連合会の協力のもと、幼稚園児による作品展をロビーで開催した。（5月～2月 年10回）

【実績】参加園数17園2,164作品

（前年度15園1,928作品）



エ ロビーコンサート

公募団体によるコンサートをロビーで実施した。前年度試行的に取り組んだ日曜日の自主コンサートをやめ、以前の土曜日年 10 回開催にもどした。

応募数は年々増え 1 回当たりの来場数も 170 名を超え、気軽に音楽を楽しむ機会として定着している。

【実績】参加 10 団体/応募 42 団体 来場者数 1,762 名
(前年度参加 15 団体/応募 38 団体
来場者数 1,638 名)



オ オペラシアター

センター所蔵のオペラの映像教材を活用し、講師（札幌大谷大学・則竹正人教授など）による解説を交えたシアター形式の講座を実施した。作品は「サロメ」「フィガロの結婚」など。（年 6 回）

【実績】580 名（前年度 6 回 507 名）

カ ちえりあ映画会

センター所蔵の映像教材を用いた映画会を実施した。ボランティア団体の「ムービー北海道」の協力を得て、視覚障がい者も鑑賞できるよう副音声をつけた作品も上映した。また、夏休み期間などは子ども向け作品を上映した。

【実績】一般向け 5 回 1,486 名。「黄金花」「火垂るの墓」ほか
親子（子ども）向け 4 回 856 名。「ねずみくんのチョコッキ」ほか
計 9 回 2,342 名（前年度 8 回 1,873 名）

キ ちえりあ映像フェスタ

北海道や札幌の歴史や文化、人々の営みをテーマにビデオ作品を公募し、映像作品の上映をとおしてまちの魅力を再発見する取り組みを行った。（3 月 23 日）

【実績】来場者数 106 名 応募 21 作品



ク ゆりかごコンサート

声楽家の井上美豊子氏によるピアノ弾き語りのコンサートとグループゆの実による絵本と歌のコンサートの 2 公演を開催し、乳幼児連れでも気兼ねなく楽しめる憩いと癒やしのひとときを提供した。（12 月 17 日、3 月 5 日）

【実績】2 公演 709 名（前年度 2 公演 660 名）



ケ ちえりあ音楽セレクション「どさんこ楽器の新開拓者たち」

札幌市内や道内で活動している音楽家を広く市民に紹介するコンサート「ちえりあ音楽セレクション」を開催した。エゾシカの皮など北海道産の素材を使った楽器をテーマに、三浦伸一（カホン制作）と箱クラブ（カホン演奏）、長嶺久美子（バグパイプ演奏）とバル・ミュゼット楽団「ラ・ゾーナ」、茂呂剛伸（縄文太鼓制作・演奏）とピアノの HAJIME とのデュオ「DJEMP」（ジャンペ）の 3 組、総勢 16 名が出演した。（3 月 19 日）

【実績】189 名



コ CDコンサート

センター所蔵のCDと音響機器を活用し、昼休み時間のひとときに無料でクラシック音楽などを聴く機会を提供した。（年 12 回）

【実績】280 名（前年度 8 回 156 名）



サ ロビーアート展

1 階エスカレーター横に設置した「アートウォール」の展示作品を公募し、たこや写真などの作品を展示して、ロビーににぎわいをもたらした。

【実績】アートウォール展示 5 作品（前年度 3 作品）



シ イマジン音楽祭（共催事業）

札幌市の平和へのメッセージ事業と連携し、イマジン音楽祭実行委員会と共催で、小・中学校および高校の児童・生徒が平和をイメージして作った詩（応募 3,000 通）に札幌ゆかりの音楽家（9 名）が曲を付けて発表するコンサートを実施した。

また、8 月 14 日に市民ホールで開かれた平和都市宣言 20 周年記念式典では、前年度の発表曲「紙ひこうき」が合唱曲にアレンジされて演奏された。（10 月 8 日）

【実績】283 名（前年度 250 名）



ス カルチャーナイト（共催事業）

夜間、公共施設等を開放し、市民が文化に親しむ機会の拡大を図るカルチャーナイトの実行委員会に参加し、センター所蔵の子ども向けアニメ 8 作品をロビーで上映したほか、願いごとを書いてロビーに飾る「短冊を書こう」を行った。（7月13日）

【実績】108名（前年度139名）



セ 北海道吹奏楽フェスティバル（共催事業）

北海道吹奏楽プロジェクトと共催で、若手プロ奏者たち（札幌管楽ソリスト）による演奏会を実施した。また、中学・高校の吹奏楽部（栄町中、八軒東中、当別中、札幌手稲高、札幌稲雲高）やプロによるレクチャーコンサートをとおして子どもたちの吹奏楽活動を支援した。

なお、今年度は2日目のレクチャーコンサートを2回に増やして開催した。（2月1日、2日）

【実績】3公演1,062名（前年度2公演840名）



（4）文化振興事業

質の高い芸術・文化に触れる機会の提供と地域文化の活性化を図るために、公益社団法人落語芸術協会（会長：桂歌丸）と連携し、以下の事業を実施した。

ア 落語学校鑑賞会

中央区、西区、手稲区の小学校7校を無料招待し、落語の楽しさに触れてもらう鑑賞会を実施した。（6月27日～29日）

【実績】招待校：資生館、宮の森、平和、八軒北、二十四軒、手稲北、手稲西
6公演1,362名（前年度6公演1,497名（7校））

イ ちえりあ特選若手落語会

次代を担う若手落語家の魅力を紹介するとともに、気軽に落語を楽しむ機会を提供した。主な出演者は三遊亭遊吉、三笑亭可龍。（6月30日）

【実績】300名（前年度354名）

ウ ちえりあ学生寄席

「ちえりあ寄席」のステージを活用し、落語などの芸能文化を学ぶ学生（北海道大学落語研究会）に成果を発表する機会を提供した。（8月23日）

【実績】180名（前年度270名）

エ ちえりあ寄席

寄席囲いをしつらえた舞台上、真打はもとより、前座、二つ目、色物も出演する道内唯一の本格的な寄席を実施した。なお、今年度は、桂平治改め 11 代目桂文治の襲名披露も行った。主な出演者は桂歌丸、春風亭小柳枝、ナイツ。(8月24日～26日)

【実績】4公演 1,588名（前年度4公演 1,572名）

オ 秋のお気軽ミニ落語会

落語の世界とその魅力を公演と講座形式で紹介した。主な出演者は三遊亭遊之介、瞳ナナ。(11月4日)

【実績】96名（前年度130名）

4 調査研究事業

(寄附行為第4条第4号に掲げる事業)

(目的) 市民のニーズに対応した生涯学習事業のあり方について調査研究する。

(1) 生涯学習に関わる調査研究事業

北海道大学高等教育推進機構と連携し、さっぽろ市民カレッジ受講生のデータを活用して生涯学習の状況を調査し、今後の事業展開や成果を地域に生かす活動のあり方について検討した。

5 生涯学習関連施設管理運営事業

(寄附行為第4条第5号に掲げる事業)

(目的) 札幌市の委託または指定を受けて、次に掲げる施設の管理運営を行う。

(1) 札幌市青少年科学館等管理運営事業

ア 展示事業の運営

(a) 常設展示

宇宙、北方圏、電気、力学などのテーマに沿って、科学の原理や科学技術を「見て」「触れて」「考える」ことができるよう、分かりやすい操作方法を示したり解説員による展示物説明を行ったりした。また展示物については老朽化した部品を交換するなどの整備を行い、利用者の安全面に十分配慮した。

(b) 実演

サイエンスショー	4月～6月「えっ！わあっ！びっくり空気！」 7月～10月「まわして伝える」 11月～2月「浮く！～そのときはたらく力は？～」 3月「色がいろイロ」 【実績】675回 15,843名（前年度 688回 14,998名）
テレビスタジオ	クロマキーなどテレビ番組で使われている特殊効果の紹介と実際に撮影体験してもらう参加型の実演を行った。 【実績】平日2回/日、土日祝日および特別展期間中3回/日
低温展示室公開	-10℃に設定した部屋の中に雪や氷の性質が分かる展示物を配置し、解説を行った。観測船「しらせ」から寄贈された南極の氷の展示も行った。 【実績】3回/日

(c) 特別展の開催

話題性の高いテーマや特定のテーマについて深く掘り下げた体験型の展示を小中学生の夏休みや冬休み期間に合わせて開催した。

サイエンジャーのワンダーランド GW

ゴールデンウィーク期間に、紙でつくる工作や数字パズル、小さい子も遊べる木の砂場など複数のコーナーを用意し、親子で楽しめる内容で開催した。(5月3日～6日(4日間))

【実績】20,702名(入館者数)
(前年度 17,436名)



夏の特別展「大恐竜展 2012～ティランノサウルス研究最前線！～」

恐竜王とも称されるティランノサウルスにスポットを当て、肉食恐竜を中心に、恐竜の進化やその生態を紹介した。恐竜同士の対決シーンを迫力ある大型模型で再現したほか、会場内では恐竜に関するクイズに答えるスタンプラリーを実施した。(7月25日～8月19日(26日間))

【実績】69,371名
(前年度「OH!脳!」27日間65,231名)



「恐竜博士が科学館にやってきた！～みんなが知らない、恐竜の3つのおはなし～」

北海道大学総合博物館 准教授 小林 快次

夏の特別展にあわせて、親子向けに、恐竜研究の第一人者からじかに話を聞く特別講演会を実施した。(8月7日)

【実績】170名

冬の特別展「サイエンジャーのナゾに挑戦！」

探偵役となった観覧者が会場内のコーナーごとに出される指示を科学原理や科学技術を利用して謎解きしていく体験型展示を行った。実際の科学捜査で使われる手法の紹介も行うなど、子どものわくわく感を刺激するように趣向を凝らした。(1月5日～20日(16日間))

【実績】24,933名
(前年度「大宇宙展」16日間26,102名)



山崎直子宇宙飛行士「宇宙への夢」展

冬の特別展と同時開催で、山崎直子宇宙飛行士の宇宙へ行くまでの道のりや宇宙での生活を紹介するパネルや、実際に使用したグッズ、DVD映像などを展示した。(1月5日～20日(16日間))

【実績】24,933名(冬の特別展入館者数)



山崎直子宇宙飛行士特別講演会「宇宙・人・夢をつなぐ」

宇宙飛行士 山崎 直子(札幌市青少年科学館名誉館長)

名誉館長委嘱式に続けて親子向けの特別講演会を実施した。夢を実現させるために努力することの大切さなどが自身の体験を交えて語られた。(1月13日)

【実績】165名

春の特別展「春だ！わっしょい！科学館まつり 2013」

幼児や小学生に「科学の楽しさ」を感じてもらえるよう会場全体をお祭り風にしつらえ、鏡の通路、和太鼓やぐら風万華鏡、磁石を使った魚釣り屋台、ブラックライトを使ったおみくじ屋台など、不思議が詰まった面白屋台を取りそろえてにぎわいを演出した。(3月23日～4月7日(16日間))

【実績】40,083名(前年度「春だ！わっしょい！科学館まつり」13日間34,649名)



(d) 講座・教室など

科学に親しんでもらうための実験、工作教室、講座などを行った。

日曜実験室	子どもを対象に、生活に密着した題材や遊びの要素を取り入れた実験教室を実施した。 4月「白と黒のコマ」 5月～8月「水にはいつているものを見分ける」 9月～12月「豆電球をつなぐ」 1月～3月「The せっけん Power！」 【実績】65回 799名（前年度65回 1,065名）
科学館の工作室	<小中学生向け> 科学的動作原理、材料や道具の正しい使い方などの習得とものづくりへの興味を喚起するため実施した。「バランスソーゲーム」ほか26種類。 【実績】84回 4,551名（前年度80回 3,930名） <小学校高学年以上向け> 小学校高学年から一般までを対象に、題材の原理の説明に特化した工作会を実施した。「サイクロン式ペットボトルクリナー」ほか。（6月30日、2月2日） 【実績】2回 15名（前年度3回 54名）
サイエンジャー 科学教室	小中学生を対象に実施した。 また特別編として、大人向けの科学教室も実施した。「ワクワク実験隊～鉄の不思議教室～」「手づくり乾電池教室」「力と運動の科学～子どもに教えるための大人の基礎実験講座～」（大人向け）ほか。  【実績】子ども向け 25回 677名（前年度28回 753名） 大人向け 4回 35名（前年度5回 47名）
親子科学教室	親子一緒に、科学をより親しみやすく感じてもらうことができる実験・工作教室を実施した。「紙コップロボットをつくろう！」ほか。（4月28日、11月23日） 【実績】2回 43組 83名（前年度2回 53組 107名）
ちびっこ ワークショップ	主に就学前の子どもとその保護者を対象に、遊びの要素を多く取り入れた、科学に親しみを持ってもらう事業を実施した。「クルクルたねコプターをつくろう」ほか。 【実績】12日 745組 1,312名（前年度12日 871組 1,657名）
工作競技会	紙でジャイロ飛行機を作って飛ばし、オリジナルルールで得点を競う競技会を実施した。（4月1日～5日） 【実績】5日間 9,106名（前年度5日間 17,436名）
バックヤード ツアー	普段見ることのできない特別展の設営の様子や展示室の裏側などを見学する事業を実施した。（7月15日、12月23日） 【実績】2回 146名（前年度2回 46名）
科学クラブ (Sciキッズ) 運営	小中学生を対象に半年ごとにクラブ会員を募り、館の裏側がわかるツアーやサイエンジャー科学教室への優先参加などの特典を付与し、リピーターの拡大につなげた。また、友の会向けに会員限定のイベントを開催した。 【実績】参加 213名（前年度 参加 266名）

科学映画会	<p>科学技術週間（4 月半ば）の関連イベントとして、ゴールデンウィーク期間に科学普及を目的とした映像 5 作品を上映した。（5 月 3 日～6 日）</p> <p>【実績】4 日間 16,258 名（前年度 5 日間 17,436 名）</p>
先端科学技術講座	<p>科学への興味を持ってもらおうと、数学における「対数」の歴史と使い方についての講座を、プラネタリウム内で、星を利用した航海術の映像などをドームに投影しながら行った。（7 月 14 日）</p> <p>【実績】「Science Fantasy～数と星にまつわる 1 つの物語～」 東京工業大学世界文明センターフェロー 桜井 進 90 名（前年度 27 名）</p>
第 7 回 環境科学展	<p>環境問題の現状と対策技術などを市民に伝えるため、企業等の取り組み紹介などのブース展示を行った。（10 月 27・28 日）</p> <p>【実績】4,403 名、出展 19 団体 （前年度 3,584 名、出展 17 団体）</p> 

(e) 学校連携・支援事業など

主に市内小学校・中学校と連携して教室や講座を実施した。また、授業や学校活動への支援を行った。

移動科学館	<p>学校に出向いて実験を行う科学教室「いろいろな電池をつくろう」を実施した。（2 月 14 日）</p> <p>【実績】山鼻南小学校 105 名</p>
幼児のための 出前サイエンス	<p>幼稚園などへ出向き、遊びの要素を多く取り入れた実験・実演・工作教室を開催した。「サイエンスマジシャンのふしぎなマジック」ほか。</p> <p>【実績】18 園 2,066 名 （前年度 15 園 1,628 名）</p> 
中高生による 科学教室	<p>生徒たちの研究成果や製作品などを展示・実演・解説する機会を提供した。（10 月 20 日）</p> <p>【実績】8 校 96 名 （宮の森中、屯田北中、定山溪中、柏中、旭丘高、北高、藻岩高、光星高） （前年度 7 校 78 名）</p> 
大学生による 科学教室	<p>大学生が講師となって子どもたちに科学教室を実施する機会を提供した。（2 月 9 日、2 月 23 日、3 月 9 日）</p> <p>【実績】2 校 3 テーマ、参加者 86 名（千歳科学技術大、北海道工業大）（前年度 2 校 3 テーマ、参加者 71 名）</p>

総合的な学習の受け入れ	小中学校および高校からの依頼により自主研修や職場体験を受け入れ、学習活動への支援を行った。 【実績】67校 1,415名（前年度64校 1,901名）
実験・実習セットの貸し出し	学校等では準備が困難な実験・実習セットを貸し出し、授業効果の向上に協力した。 【実績】12団体 19セット（前年度14団体 28セット）
実験・実習セットの制作	中学校理科教諭と連携し、授業に生かせる補助教材を制作した。 【実績】天体運動学習セット・太陽系ポスター制作
教員研修	授業やクラブ活動に生かせる観察・実験の紹介および実習を中心とした研修を実施した。（1月8日） 【実績】1回 19名（前年度1回 19名）
博物館実習等の受け入れ	大学からの依頼により、学芸員の資格取得を目指した博物館実習生やインターンシップ体験実習生の指導を行った。 【実績】博物館実習5校6名、インターンシップ1校1名（前年度博物館実習3校4名、インターンシップ2校2名）

(f) 科学館ボランティアの活用

科学館ボランティアに、実験や工作の手伝いをとおして科学普及の一翼を担ってもらった。

【実績】登録者数7名（前年度7名）

イ 天文事業の運営

(a) プラネタリウム投影

プラネタリウムの機能を生かし、天文への理解を促した。

一般投影	星や星座についてわかりやすく解説し、天文学の初歩から最新情報までを学習する機会を提供した。 【実績】1,335回 96,081名（前年度1,355回 102,353名）
学習投影	学習要領を踏まえ、月の動きや季節の星座、星の色などについて解説した。 【実績】149回 232校 18,500名（前年度125回 216校 17,387名）
夜間特別投影	季節的なあるいは新しい天文的話題をテーマに、対象を絞った投影や通常よりも掘り下げた内容の投影を、夜間に行った。「生命の惑星を求めて」「黄道十二星座の秘密」ほか。 【実績】7回 1,077名（前年度7回 1,214名）
オート番組制作	オリジナルの内容を盛り込んだ、一般投影などで上映する子ども向けのオート番組を制作した。 【実績】第87作「サイエンジャーと星の一生」（前年度1本）
イブニングプラネタリウム	日中に行っている一般投影を週末の夜間に行い、普段来館できない人に観覧機会を提供した。 【実績】4回 399名（前年度4回 440名）

字幕付き プラネタリウム	一般投影に字幕をつけるとともに、星の名前や用語などを視覚的に表現し、だれもがプラネタリウムを楽しむための取り組みを進めた。 【実績】6回 344名（前年度6回 326名）
-----------------	------------------------------------------------------------------------------------------

(b) 天体観望事業

科学館観望会	プラネタリウム特別投影やイブニングプラネタリウム開催に併せ、科学館駐車場において移動天文車などを使った観望会を行った。 【実績】4回 262名 ※悪天候のため中止11回 (前年度4回 440名 ※悪天候のため中止8回)	
移動天文台	移動天文車を各所に派遣し、天文台を利用する機会の少ない市民に、自分たちの住む地域で気軽に天体観望する機会を提供した。 【実績】32回 3,201名（前年度32回 2,808名）	
札幌市天文台の公開	天体観望の機会を提供し、天文に関する話や質問への対応をとおりて天文に対する興味・関心を高めてもらうとともに、天文台の利用促進を図った。 【実績】午前・午後 573回 3,696名、夜間 65回 1,351名 (前年度午前・午後 564回 2,814名、夜間 64回 1,227名)	
GW 太陽観望会	ゴールデンウィーク期間に、科学館周辺で太陽の観望会を実施した。 【実績】4回 300名（中止3回） (前年度2回 310名（中止3回）)	
GW 惑星観望会	ゴールデンウィーク期間に、科学館周辺で惑星の観望会を実施した。 【実績】1回 30名（中止5回） (前年度2回 140名（中止3回）)	
日食観望会	札幌市天文台で、部分日食（関東などでは金環日食）の動きを専用メガネで眺めたりディスプレイに映し出して説明したりする観望会を実施した。（5月21日） 【実績】600名	
部分月食インターネット中継・観望会	札幌市天文台で、部分月食の観望会を実施した。またインターネットで月食の模様を中継配信した。（6月4日） 【実績】アクセス数 18,982件 観望会 60名	
金星太陽面通過観望会	珍しい天文現象をじかに観望する機会を提供するため、科学館と札幌市天文台で観望会を実施した。（6月6日） 【実績】260名	
冬休み木星観望会	科学館屋上天文台で木星の観望会を実施した。 【実績】5回 70名（中止1回）（前年度7回 104名）	

(c) 教室・講座等

天文に関する知識と理解を深めてもらうための講座や教室を実施した。

大人の星空教室	初心者向けや中級者向けなど、学習段階に応じた内容の教室を、天体観測機器やプラネタリウムを活用しながら実施した。 【実績】2回 64名 (前年度2回 51名)	
詳しく学ぶ天文講座	中級者向けに、少し専門的な内容を盛り込んだ天文教室を天体観測機器やプラネタリウムを活用しながら実施した。 【実績】2回 58名 (前年度2回 61名)	
親子天文教室	小学生とその保護者を対象に、天文工作と天体観望を組み合わせた講座を実施した。「光る！星座スタンドを作ろう」ほか。 【実績】夏期3回 56組 124名 (前年度2回 59組 141名) 冬期3回 54組 120名 (前年度3回 47組 115名)	
宇宙セミナー	地球電磁気・地球惑星圏学会との共催で、第一線で活躍する専門家（北海道大学大学院理学研究院 橋本武志准教授、京都大学大学院理学研究科 藤浩明准教授ほか）による、「聞こえてくるよ、地球の鼓動～電流と磁場でさぐる地震・火山～」を開催し、トークショーや学会研究者による公開実験などを実施した。(10月20日) 【実績】288名 (前年度147名)	
日食写真講座	5月21日の部分日食に先立ち、撮影の実習を交えて、日食のメカニズムや天体写真撮影の基礎知識を学ぶ講座を開催した。(5月13日、19日) 【実績】2回 25名	

(d) プラネタリウム祭り

プラネタリウム裏側探検、絵本の読み聞かせ、ソムリエによるワインと星空の解説、プラネタリウムコンサートなど、科学以外のジャンルとの融合を盛り込んだ「第7回プラネタリウム祭り」を開催し、多くの市民に楽しんでもらった。(12月)

【実績】4日間 4,116名 (前年度4日間 3,117名)



(e) 4次元デジタル宇宙シアター

国立天文台が開発した4次元プログラムによって立体視できる宇宙空間の映像を天文指導員の解説を交えて上映した。(2月)

【実績】32回 1,324名 (前年度96回 5,337名)

(f) 学校連携・支援事業など

小中学生を対象に、理科授業支援の一環として「プラネタリウム学習投影」を実施した。(再掲)

【実績】149回 232校 18,500名 (前年度 125回 216校 17,387名)

(g) 天文指導員の養成

学生や一般を対象に定期研修や天文事業への参加機会を提供し、天文普及の一翼を担う人材を養成した。

【実績】登録者数 56名 (新規 21名) (前年度登録者数 57名)

(h) ほしのおはなしかい

プラネタリウムの観覧が難しい幼児とその家族を対象に、宇宙に関係のある絵本の読み聞かせを行った。(4月1日、3月30日、31日)

【実績】3回 45名 (前年度 5回 81名)

ウ 共催事業

(a) 札幌市中学校「私たちの科学研究発表会」

札幌市中学校文化連盟と共催で、市内中学校の科学クラブによる研究活動発表会を行った。(11月3日、4日)

【実績】14校 37テーマ 423名 (前年度 13校 40テーマ 367名)

(b) 気象講座「新しい気象」

社団法人日本気象学会北海道支部と共催で、身近な気象現象や話題性のあるテーマについて、専門の講師による最新の研究・情報の紹介を交えた講座を実施し、気象学の啓発を図った。(7月28日)

【実績】21名 (前年度 31名)

(c) 宇宙の日 作文・絵画コンテスト

財団法人日本宇宙フォーラムなどと共催で、宇宙の日(9月12日)を記念して、小中学生から「宇宙に関する作文・絵画コンテスト」の作品を募集し、審査・表彰を行った。中学生作文の部において、当館での最優秀作品が全国入賞を果たした。

【実績】応募数 作文：小学生 68名 中学生 79名 絵画：小学生 381名 中学生 28名
(前年度 作文：小学生 68名 中学生 54名 絵画：小学生 431名 中学生 59名)

(d) 札幌市創意くふう作品展

札幌創意工夫教育研究会などの主催で、市内の小中学生が自由研究などで制作した作品を審査し、その表彰式および作品の展示を行った。(9月15日、16日)

【実績】展示数 88点 (応募数 271点)
(前年度 89点 応募数 257点)



(e) 北海道青少年科学技術振興作品展

北海道発明工夫教育連盟などの主催で、道内の小中学生が自由研究などで制作した作品のコンテストで、入賞者への表彰式を行うとともに、応募作品の展示を行った。(11月23日～25日)

【実績】展示数 53点 (応募数 116点) (前年度 61点 (応募数 127点))

(f) 夏休み天体観望会

財団法人札幌市青少年女性活動協会と共催で、定山溪自然の村にて観望会を行い、光害の少ない地域において星雲や流星などの淡い天体を見る機会を提供した。(8月12日)

【実績】221名(前年度133名)

(g) さっぽろ星まつり

財団法人札幌市公園緑化協会と共催で、前田森林公園にて天体観望事業を実施した。9月9日は、悪天候により内容を縮小して開催した。(9月8日、9日)

【実績】4,100名(前年度1日400名)



(h) あつべつちょっと大人のカルチャーナイト

実行委員会に参加し、ソムリエによるワインと星空を絡めた講演をプラネタリウムを使って実施した。(1月26日)

【実績】34名(前年度58名)

(i) 藻岩で星見☆ナイト

札幌市観光文化局が主催する藻岩山でのイベントで天文教室と工作教室を実施した。(8月17日)また、札幌市水道記念館で天文講座と観望会を実施した。(10月19日)

【実績】266名(前年度233名)

(j) キャンドルナイト in 琴似二十四軒 星空観察会

実行委員会に参加し、琴似小学校グラウンドを会場としたイベントにおいて、移動天文車を使用した星空観察会を実施した。(6月14日)

【実績】400名

(k) さとのカルチャーナイト

実行委員会に参加し、サッポロさとらんの夜間公開にあわせて、移動天文車を使用した天体観望会を実施した。(7月15日)

【実績】94名

(l) 円山動物園「夜の動物園」

円山動物園と共催で、動物園の夜間公開にあわせて、実験教室や星空解説を行った。(8月4日、15日)

【実績】2回250名

(m) テクノパークフェスタ

札幌テクノパーク協議会などが主催の札幌市エレクトロニクスセンターでのイベントにおいて、サイエンスショーやものづくり教室を行った。(11月10日)

【実績】60名

(n) 帯広市立大正小学校「びっくりサイエンスショー&ドキドキ科学教室」

帯広市立大正小学校開校40周年事業に協力し、サイエンスショーや体験科学教室を実施した。(8月26日)

【実績】200名

(o) **余市宇宙記念館「毛利衛さん宇宙飛行士 20 周年事業」**

余市宇宙記念館の記念事業に協力し、サイエンスショーや実験を実施した。(9月9日)

【実績】195名

(p) **子ども向けメカトロ教室**

一般社団法人日本機械学会と共催で、ハンダ付けの要らない電子回路教材を使って工作教室を実施した。(6月30日)

【実績】37名(前年度19名)

(q) **コズミックカレッジ(ファンダメンタルコース)**

宇宙航空研究開発機構(JAXA)宇宙教育センターの協力のもと、身近な自然の事物・現象に関心を見だし、観察、実験、ものづくりなど自然を探究する活動を通して科学的なものの見方、考え方を深める科学教室で「宇宙ってどんどころ?」「傘袋ロケットを飛ばそう!」を実施した。(6月30日)

【実績】30名



(r) **宇宙教育指導者セミナー(ベーシックコース/スキルアップコース)**

JAXA と共催で、好奇心、冒険心を備えた創造的な青少年を育成する指導者育成セミナーを開催した。(6月2日、3日)

【実績】88名(前年度42名)

(s) **CISE (Community for Intermediation of Science Education) ネット事業**

札幌周辺地域の教育施設が連携し地域住民への実物科学教育を進めるネットワーク「科学系博物館・図書館の連携による実物科学教育の推進~CISE ネット」に運営団体として参加し、ヒグマや恐竜に関する講座や事業活動の紹介を行った。

【実績】2回52名(12月22日、2月3日)

サイエンスフェスティバル(1月26日)(札幌駅前通地下歩行空間)1,420名

(t) **CSR 事業への協力**

恵庭のえこりん村で星空観察会を実施し、株式会社アレフのCSR(企業の社会的責任)事業に協力した。(8月11日)

【実績】100名

(u) **地域連携事業(厚別区との連携)**

「あつべつ区民協議会」「厚別区民まつり」「新さっぽろ冬まつり」など厚別区関係の地域事業に協力し連携を図った。

エ 学習支援・情報発信事業

(a) 学校連携支援事業等

理科授業や総合的学習への支援をはじめ、市内小・中学校などと連携した事業を行った。(再掲)

(b) 天文相談コーナー（星のへや）の運営

天体望遠鏡、参考図書などを常備して学習を支援し、初歩的な疑問・質問への対応も行った。

(c) ホームページによる学習支援・情報発信

科学館ホームページに科学トピックスやワークシートなどを掲載し、最新情報の提供や学習の支援を行った。

【実績】アクセス数 242,999 件（前年度 230,828 件）

(d) 科学館ニュースの発行

「科学館ニュース」を毎月制作し、館内に掲示したほか、市内小・中学校・幼稚園などへ配布して、最新のイベント情報などを提供した。

(e) 科学技術に関する資料の収集

関係出版物や他施設の発行物などを収集するとともに、解説の基礎資料や展示法の参考とした。

(f) 天文資料の収集および紹介

天文に関する解説資料や出版物を収集するとともに、天文台や移動天文車で天体写真を撮影し、インターネット中継やホームページ等で公開した。

(g) 各種事業の情報発信

事業の周知を図るため、ちらしやポスターなどを効果的に用い、積極的な広報活動に努めた。

オ 利用者などの声を生かす取り組み

(a) 科学館運営協議会

学校関係者や学識経験者、地域有識者などから事業の検証や助言を得る協議会を開催し、その声を反映させた。

(b) 小学校・中学校連絡会

市内小学校、中学校の理科教諭を中心に、科学館のあり方や学校との連携方法などについて意見を聴取する場を設け、運営に生かした。(11月28日、29日)

【実績】小学校連絡会 15 名、中学校連絡会 13 名

(c) 子ども科学会議

厚別区の小学校4年生から、科学館施設や展示物への要望など、広く意見を聴取する場を設けた。また、児童に日曜実験室等の認知度が低かったことから、各種事業のちらしを市内や近郊の児童に配布して科学館利用の働きかけを行うなど、意見を運営に生かした。(3月10日)

【実績】4年生 15 名（厚別区内小学校 15 校から 1 名ずつ）

(d) 利用者アンケートの実施

特別展や特別投影など主な事業の来館者に対して施設利用に関するアンケートを実施し、それを踏まえて授乳室を1階に設置するなど運営に生かした。

カ 開館記念感謝デー

利用者への感謝の意をこめて、開館記念日（10月4日）に近い土曜日に展示室およびプラネタリウムを1日無料開放し、展示物スタンプラリーやIBMタイアップ実験イベント「宇宙探査機を飛ばそう！」などさまざまな催しを実施した。（10月6日）

【実績】 3,328名



(2) 札幌市生涯学習センター管理運営事業

ア 貸室事業

ホールおよびサークル活動室などを学習活動の場として提供した。

ホールや陶芸室の割引制度を引き続き実施し、吹奏楽や合唱の練習に提供した。

毎月初めに行っている一斉受付においては、手続きを簡略化してサービス向上を図った。

イ 施設の有効活用

受験生など学習者への空き室の開放を夏・冬・春休み期間に実施し、施設の有効活用を図った。

【実績】 夏季期間中（7/23～8/17）13日、冬・春季期間中（12/17～3/18）57日

（前年度 夏季期間中（7/25～8/25）18日、冬・春季期間中（12/26～3/14）41日）

ウ 利用者などの声を生かす取り組み

(a) 生涯学習センター運営協議会

札幌市教育委員会が学識経験者などにより設置した運営協議会に出席し、さまざまな助言を事業の企画や施設の管理運営に生かした。

(b) 利用者アンケートの実施

接遇などについて、メディアプラザ利用者、貸室利用者、講座受講者を対象にアンケート調査を実施した。利用者への接客の満足度は8割を超え、おおむね好結果であった。

(3) 札幌市視聴覚センター管理運営事業

札幌市からの委託により、視聴覚教育の推進と市民団体や学校などへの学習支援を行うことを目的に、視聴覚センターの管理運営を行った。

ア 学習教材の開発事業

学校教育、社会教育関係者に地域性がある教材を制作してもらい、教材制作を行う教職員などへの助言・指導も行った。

また、全国自作視聴覚教材コンクール（一般財団法人日本視聴覚教育協会主催）で2作品が入選した。

【実績】新規制作教材数 8 本

「ガラスの町・小樽市」

「先人が遺した開拓遺産」

「小樽港北ぼう波ていをつくる」

「札幌のミツバチ」

「古いコンクリート彫刻を守ろう」

「みんなのまちの老人ホーム～介護ってどんな仕事？～」

「雪をたのしむ～さっぽろ雪まつりと雪遊び～」

「カービングスキーで楽しくすべろう（上級編）」

平成 24 年度全国自作視聴覚教材コンクール入選作品

・小学校部門 「歴史ある港町 函館市」（平成 23 年度制作）

・社会教育部門「A E D の使い方」（平成 20 年度制作）

イ 視聴覚教材の貸し出し事業

市内の学校、町内会やサークルなどに、16 ミリフィルム・ビデオなどの貸し出しを行った。また、自主制作教材をホームページ上でも見ることができるデジタルアーカイブスの充実を図った。

【実績】教材・機材貸出数 5,225 本（前年度 5,879 本）

（内訳：幼稚園・保育園 303、小学校 3,152、中学校 621、高校 39、特別支援学校 58、社会教育関係団体 1,052）

視聴覚教材数 10,815 本（新着数 DVD 107 本）

（内訳：16 ミリ 3,065、VHS 6,506、DVD 1,244）

自主制作教材アクセス数 40,944 件（前年度 35,985 件）

ウ 視聴覚学習機会の提供事業

(a) 16 ミリ映写機操作技術講習会

学習活動や地域活動の中での 16 ミリ映画利用促進を目的に開催した。（年 3 回 6 月、11 月、2 月）

【実績】15 名（前年度 4 回 25 名）

(b) ビデオ制作ワークショップ

自主制作教材の制作技術の向上を図るため、職員が講師となり、教職員を対象に夏休み・冬休み期間中に開催した。（年 2 回 8 月、1 月）

【実績】53 名（8 月 26 名、1 月 27 名）（前年度 2 回 58 名）

エ 共催事業

(a) 中学校校内放送コンテスト

札幌市中学校放送教育研究会と共催で、中学校放送局員が制作した番組とアナウンスのコンテストを開催した。(7月22日)

【実績】7校30名(前年度5校20名)

作品数	アナウンス部門	6名(前年度3名)
	朗読部門	22名(前年度23名)
	テレビ番組部門	1作品(前年度1作品)
	ラジオ番組部門	1作品(前年度1作品)

(b) 中学校校内放送技術講習会

札幌市中学校放送教育研究会と共催で、中学校放送局員の技術向上を図るための講習会を実施した。(8月23日、1月10日)

【実績】8月：9校42名(前年度8校30名)、1月：3校9名(前年度6校13名)

(c) 日本映画名作祭 2012

札幌映画サークルと実行委員会を組織し、東京国立近代美術館フィルムセンターが保有する貴重な名作映画4作品を2日間上映し、併せて、札幌出身で上映作品「ぼくらの七日間戦争」の監督菅原浩志氏の講演を行った。(11月9日、10日)

【実績】670名(全8回)(前年度1,304名)

上映作品 時代を彩るアイドル特集
「伊豆の踊子」「野菊の墓」「時をかける少女」「ぼくらの七日間戦争」
(前年度成瀬巳喜男監督4作品1,304名(全8回))

6 収益事業

(寄附行為第4条第6号に掲げる事業)

付帯する事業として、来館者への便益提供を目的とした事業を行った。

(1) 売店・自動販売機事業(札幌市青少年科学館)

(2) レストラン・自動販売機事業(札幌市生涯学習センター)